

明宝地域振興計画



令和3年12月

郡上市

明宝振興事務所

目 次

第1章 基本的事項

- (1) 明宝の概況 1
- (2) 明宝の人口の推計..... 2
- (3) 明宝の産業（就業者数と事業所数） 4

第2章 分野別計画

- (1) 産業・雇用 5
- (2) 環境・防災・社会基盤 8
- (3) 健康・福祉 10
- (4) 教育・文化・人づくり 11
- (5) 自治・まちづくり 13

第3章 小さな拠点とネットワークの形成にむけて

- (1) 小さな拠点とネットワークの考え方 15
- (2) エリア設定の考え方 15
- (3) 地域運営の仕組みづくり 16

第4章 明宝における小さな拠点とネットワークづくり

- (1) 校区ごとの現状 18
- (2) 明宝地域の主な地域活動団体 19
- (3) 小さな拠点とネットワークづくりの方向性 20

第1章 基本的事項

(1) 明宝の概況

明宝は、郡上市の北東部に位置し、高山市や下呂市に隣接しています。地域の北部にそびえる烏帽子岳を水源として地域の中央を長良川支流の吉田川が気良川、寒水川を集めて南に流れ、地域の東部を馬瀬川に注ぐ木曾川支流の弓掛川が東に流れています。この2つの河川によって深い谷が形成され、7つの集落及び耕地はこの河川沿いの河岸段丘斜面に点在しています。気候は寒暖の差が激しく、冬季には高地で積雪が1m～2mにも達する厳しい自然条件となっています。

基幹道は、地域を縦断する国道472号（通称せせらぎ街道）や主要地方道金山明宝線、白鳥明宝線で、隣接する八幡町、高山市などを結ぶ重要な生活路線となっているほか、県道美並和良明宝線が和良町へ連絡する路線となっています。なお、主要地方道金山明宝線は小川地区への唯一の生活路線ですが、標高912mの峠を越える路線で、狭隘なうえに降雨時には雨量規制によってたびたび通行止めが生じるなど生活の不便さを抱えていました。このため、地元住民が中心となって長年にわたり道路改良の促進活動に取り組み、その結果、地域の悲願であった「めいほうトンネル」が令和3年10月27日に開通しました。

他地域と連絡する公共交通機関については、郡上八幡駅から郡上明山を結ぶ「八幡バス明宝線」のみであり、郡上明山から高山方面へ向かう公共交通はありません。

産業は、かつては林業、養蚕、畜産が主でしたが、昭和60年に「むらおこし」をスタートさせ第三セクター会社5社を設立して、主力が観光産業へと移りました。近年では、めいほう鶏ちゃん研究会がB-1グランプリへ出店し「鶏ちゃん」が全国的に知られるところとなり、またここ数年では、農山村資源を新しい視点で活用する地域振興型のコミュニティビジネスや、都会の子どもたちに自然体験を提供する交流型ビジネスが生まれています。さらに、お米やジビエ、濁酒のブランド化、地域資源を活かしたスイーツなど、新しいコンセプトを取り入れた商品開発も行っています。

伝統文化の継承においては、明宝歴史民俗資料館に住民の寄託による貴重な民俗資料が展示されており、その一部が国の重要有形民俗文化財に指定されています。また、地域の7地区すべてで毎年神楽が奉納され、とりわけ寒水の掛踊は、令和3年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。そのほか気良地区の地歌舞伎、小川地区の地芝居なども継承されています。また、地域づくり活動が盛んであり、地域の活性化を目的とした一般社団法人明宝をはじめ、NPO法人、任意団体を含めて約50団体が地域づくり活動に取り組んでいます。



めいほう高原キャンプフィールド



小川の花桃

(2) 明宝の人口の推計

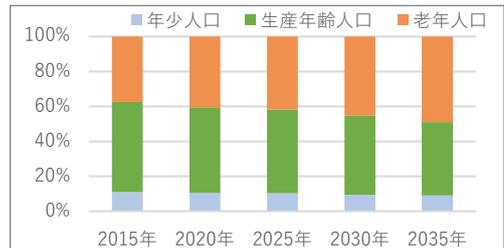
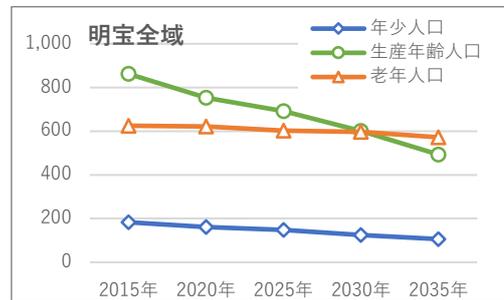
明宝全域では、すべての年齢区分で人口が減少しています。特に年少人口と生産年齢人口の2015年から2035年にかけての減少率が40%台と高く、2035年には老年人口が最も多くなる予測となっています。

校区ごとの人口推移をみると、小川小学校区ではすべての年齢区分で大きく減少しており、特に年少人口の減少が著しく、老年人口の割合が極めて高くなっています。

【3年齢区分（年少人口：0～14歳、生産年齢人口：15～64歳、老年人口：65歳以上）の人口推移】

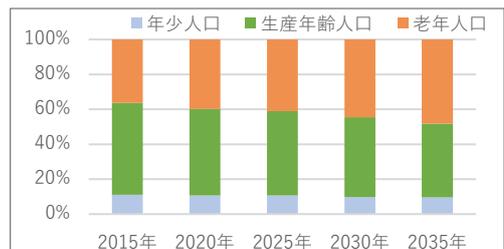
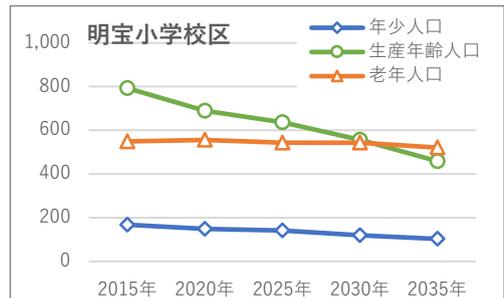
（資料：「将来人口・世帯予測ツールV2（H27国調対応版）データ」）

明宝全域	男女計 ※()は2015年を基準とした増減率				
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
年少人口	183	161	148	125	106 (△42.0)
生産年齢人口	862	753	691	601	493 (△42.8)
老年人口	625	622	602	596	572 (△8.4)
合計	1,670	1,536	1,441	1,322	1,171 (△29.8)



- ・すべての年齢区分で人口が減少する予測であり、年少人口及び生産年齢人口が半数近く減少し、2035年には老年人口が最も多くなる予測となっている。

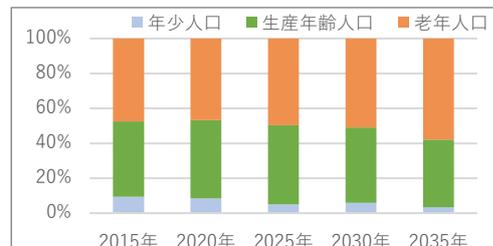
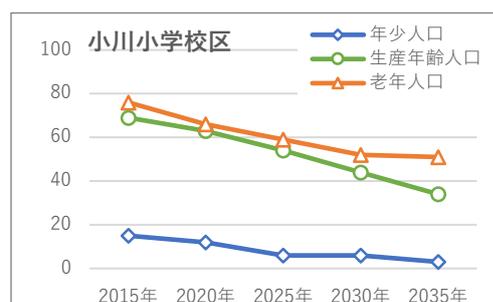
明宝小学校区	男女計 ※()は2015年を基準とした増減率				
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
年少人口	168	149	142	119	103 (△38.6)
生産年齢人口	793	690	637	557	459 (△42.1)
老年人口	549	556	543	544	521 (△5.1)
合計	1,510	1,395	1,322	1,220	1,083 (△28.2)



- ・年齢区分の減少率は明宝全域と同じ傾向となっている。

小川小学校区	男女計 ※()は2015年を基準とした増減率				
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
年少人口	15	12	6	6	3 (△80.0)
生産年齢人口	69	63	54	44	34 (△50.7)
老年人口	76	66	59	52	51 (△32.8)
合計	160	141	119	102	88 (△45.0)

・年少人口の減少率が80%と非常に高い値となっている。その他の年齢区分でも減少率が高く、合計の減少率45%も市内で最も高い。



(3) 明宝の産業（就業者数と事業所数）

明宝全体では、住民の就業者数に対して地区内事業所の従業者数が半数以下で、住民の多くが地域外で就業していることが読み取れます。産業別割合については、明宝小学校区で第3次産業の事業所数が71.2%と高く、地区内事業所の従業者数も高い割合となっています。一方で小川小学校校区では、第2次産業の地区内事業所の従業者数の割合が高くなっています。また、両校区ともに住民の就業者数に対し地区内事業所の従業者数が少なく、住民の多くが地区外で就業していることが読み取れます。

【就業者数及び事業所数の状況】

（資料：①総務省・国勢調査（2015年）、②③経済産業省・経済センサス（2016年））

	項目	人数・ 事業所数	産業別割合		
			第1次産業	第2次産業	第3次産業
明宝全体	① 住民の就業者数（人）	858	16.08%	31.93%	51.99%
	② 地区内の事業所数（事業所）	77	5.19%	25.97%	68.84%
	③ 地区内事業所の従業者数（人）	399	10.53%	46.12%	43.35%
明宝小学校区	① 住民の就業者数（人）	790	15.57%	31.77%	52.66%
	② 地区内の事業所数（事業所）	66	4.55%	24.24%	71.21%
	③ 地区内事業所の従業者数（人）	357	9.52%	44.82%	45.66%
小川小学校区	① 住民の就業者数（人）	68	22.06%	33.82%	44.12%
	② 地区内の事業所数（事業所）	11	9.09%	36.36%	54.55%
	③ 地区内事業所の従業者数（人）	42	19.05%	57.14%	23.81%

第2章 分野別計画

【まちづくりの方向性】

住民主体による手づくり自治と 産業の創出を目指します
 ～アフターコロナ社会とデジタル化に対応したハンドメイドの里「めいほう」～

(1) 産業・雇用

【現状と課題】

昭和 60 年、過疎からの脱却を目指し、通年型観光立村と若者の定住の実現に向け、観光開発や産業振興などによる「むらおこし」をスタートさせました。第三セクター会社 5 社を設立してスキー場の開発、特産品開発、温泉開発等に取り組み、村の姿を短期間のうちに大きく変えましたが、平成 12 年の東海北陸自動車道飛騨清見 IC の開通以降、地域の幹線道路である国道 472 号（通称：せせらぎ街道）を通る車の台数が減り続け、さらに新型コロナウイルス感染症などの影響により、明宝を訪れる観光客は大幅に減少するなど、地域の活力が低下している状況となっています。こうした中であって、明宝の玄関口になる「道の駅明宝」を中心とした観光戦略の再構築が求められています。また「むらおこし」で設立された第三セクターのもつネットワークやノウハウを活かし、団体間の連携を活発化させ、地域経済を運営する新たな団体による新しい産業の創出が望まれています。

ここ数年では、農山村資源を新しい視点で活用する地域振興型のコミュニティビジネスや、都会の子どもたちに自然体験を提供する交流型ビジネスが生まれており、引き続き、豊かな自然を活かした地域づくり型の観光産業を強力に推進させる取り組みが必要となっています。加えて、アフターコロナ社会とデジタル化に対応した取り組みが急務となっています。

【目指す将来像】

ずっと、働きたくなる明宝

施策 1		地域活性化の拠点づくりによる経済の好循環と産業・雇用の創出
主な取り組み		
1-①	道の駅明宝のトータルデザインづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・テナントを含めた道の駅明宝全体のトータルデザインづくり ・道の駅明宝の再整備や周辺環境整備、森、河川等の観光資源の活用と周辺（大谷）地区の観光施設（神社仏閣等）を含めた散策路など、地域に留まる仕掛けづくり ・地域住民や来訪者のための芝生広場の整備など、遊べる場づくり

施策 1		地域活性化の拠点づくりによる経済の好循環と産業・雇用の創出
主な取り組み		
1-②	道の駅明宝の魅力向上を図り、立ち寄り施設から目的施設への転換を推進	<ul style="list-style-type: none"> ・明宝ジビエやお米等の地域の特産品を活かしたメニューの開発・販売 ・売店における明宝ジビエやお米、濁酒等の地場産品の販売強化及び魅力向上対策 ・明宝歴史民俗資料館のサテライト展示による交流や学べる場づくり ・道の駅明宝2階の体験スペースを活用したツアーの推進 ・インバウンド等に向けた受入体制の確立 ・少人数旅行向けのディープに明宝を体験できる旅行企画の推進 ・住民ガイドの育成
1-③	道の駅明宝を拠点として、地域の特産品によるオリジナル商品の開発や、農林水産物のブランド化を推進	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナル商品開発に向けた活動支援 ・明宝ジビエやお米、濁酒等の地場産品のブランド化に向けた取り組み支援 ・安定した商品販売のための仕組みづくり ・農産物生産者の技術力向上支援と新規生産者の育成推進

施策 2		組織運営の充実による経済の好循環と産業・雇用の創出
主な取り組み		
2-①	第三セクターを中心に団体間の連携を高め、新しい産業を創出	<ul style="list-style-type: none"> ・第三セクターのもつネットワークやノウハウを活かした起業支援 ・地域の人材が流出することなく、地域で働くことが出来る仕組みの構築 ・観光協会のあり方や運営方法の検討推進 ・郡上明宝どぶろくとスイーツ等のコラボ商品の開発や販売協力等の促進 ・年間を通して働く場づくりと雇用を確保する仕組みの検討
2-②	道の駅明宝を中心とした来訪者の動向分析に基づく新たな観光戦略の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・産業となる農業や林業等の体験を加えた視察プログラムの開発と総合窓口の構築 ・スキー場と連携したグリーンシーズンコンテンツの充実と誘客のための総合窓口の構築と充実 ・明宝ファンの囲い込みと交流人口の増加を目的として設立した「明宝ふるさとクラブ」の維持、拡大 ・地域情報の集約による明宝 HP の作成管理及び EC サイトによる明宝ファン増加への仕掛けづくり ・農泊の長期滞在型旅行企画と総合窓口の構築 ・モバイルアンケート調査による来訪者の分析と戦略の構築
2-③	生産者、加工業者、販売業者の連携強化支援	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな特産品（郡上明宝どぶろく等）の生産販売の推進 ・営農組織の育成強化 ・持続可能な地域営農に向けた体制づくりへの支援 ・地域おこし実践隊事業による産業支援

施策3		地域資源の活用による経済の好循環と産業・雇用の創出
主な取り組み		
3-①	地域資源を活かした新たなツーリズム事業を推進	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統行事や明宝歴史民俗資料館などの里山文化や食文化を活用した着地型旅行企画の推進（明宝観光協会、明宝ツーリズムネットワークセンター等の連携強化） ・農泊の推進
3-②	公共施設を有効活用した新たな事業を推進	<ul style="list-style-type: none"> ・空き公共施設の有効活用のため、大学のサブセンターや合宿機能などの調査研究 ・公共施設の有効活用と新たなニーズに対応するためのスポーツツーリズムの推進
3-③	豊かな地域資源を活かした再生可能エネルギーの導入推進	<ul style="list-style-type: none"> ・森、河川等の豊かな地域資源を活用した、再生可能エネルギー（小水力発電、木質バイオマス発電、太陽光発電）の推進

(2) 環境・防災・社会基盤

【現状と課題】

明宝では、國田家の芝桜を愛する会、大谷の善兵衛桜を守る会、小川の花桃などの地域の環境保全と観光資源としての活用を兼ねた活動が盛んに行われてきました。しかし、少子高齢化に伴い活動の低迷が懸念されています。

今後は、多面的な機能を有する森林や農用地の保全を図りながら、地域の資源を観光資源として活用する取り組みや、獣害対策による獣肉等の活用、木質バイオマスや小水力発電などの再生可能エネルギーの活用により、新たな雇用を創出し若者の地元定住につなげる仕組みの構築が必要となっています。

防災においては、昭和44年9月に発生した「奥美濃地震」は本地域に甚大な被害をもたらしましたが、時間の経過とともにその恐ろしさは風化し、自然災害に対する意識は低下しています。しかし、近年の地球温暖化に伴う気候変動による集中豪雨により、防災指定避難所等への避難が多発することで防災意識が高まりつつあり、避難所施設の充実や、日常の防災の拠点となる施設の整備、放置される里山の整備と活用が求められています。

社会基盤においては、高齢者世帯の増加に対応した道路整備と公共交通の充実、年々増加している空き家への対策が課題となっています。また、めいほうトンネルの開通に伴う交通網の変化や通行量の増加に対応した地域の安全確保と地域振興による地域活性化が必要であると同時に、公共施設の適正配置に対応した公共施設の有効活用が求められています。

【目指す将来像】

ずっと、安心して住みたくなる明宝

施策 1		地域資源の有効活用
主な取り組み		
1-①	環境保全による観光資源としての活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 國田家の芝桜、大谷の善兵衛桜、小川の花桃などの地域の環境保全及び観光資源としての活用 ・ 財産区林（日出雲の森等）を活用し、地域を巻き込んだ森林ツーリズムの推進 ・ めいほう高原の森林レジャー施設など森林資源の有効活用
1-②	獣害対策による獣肉等の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農山地保全のための獣害対策や、獣肉等の活用拡大の促進
1-③	豊かな地域資源を活かした再生可能エネルギーの導入推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森、河川等の豊かな地域資源を活用した再生可能エネルギー（小水力発電、木質バイオマス発電、太陽光発電）の推進（再掲）

施策2		防災・減災の推進
主な取り組み		
2-①	道の駅明宝の生活支援機能の向上	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活必需品等の販売機能の充実 地域の防災拠点となるような施設整備
2-②	防災指定避難所としての施設設備の強化	<ul style="list-style-type: none"> 明宝コミュニティセンター多目的ホールの防災指定避難所としての強化（冷暖房、バリアフリー化、トイレ改修）の推進 地区の指定避難所や一時避難所の設備強化
2-③	農山地保全による防災・減災	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな里山資源を守るとともに、森林整備・治山事業の推進や資源の有効活用とそれに伴う防災・減災を推進

施策3		新しい社会基盤の創出
主な取り組み		
3-①	自動運転サービスの推進	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化に対応するための自動運転サービスの導入推進
3-②	居住環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人材が流出することなく、地域で住み続けることが出来る居住環境の整備 UIJターンなどの地域活性化につながる人材流入のための居住施設の確保 空き家を資源として捉え有効活用できる仕組みの構築 危険空き家への対策
3-③	公共施設の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設適正配置計画に基づく公共施設の有効活用 道の駅明宝への公共交通の乗り入れ めいほうトンネルの開通に伴う交通網の変化による公共施設の有効活用

(3) 健康・福祉

【現状と課題】

明宝では、明宝地区社会福祉協議会と NPO 法人が連携して地域福祉活動を推進する中、NPO 法人による有償移送サービスや、お年寄りが集まり、会話やゲーム、食事を楽しむ機会として住民主体で地域の集会所を活用した「ふれあい・いきいきサロン」の活動が活発に行われており、このような活動は高齢者の健康づくりにもつながる重要な取り組みとなっています。

高齢者世帯や独居老人世帯は年々増加しており、買物支援など高齢者の生活ニーズに対応するための活動拠点の整備が課題となっています。

また、NPO 法人が高齢者生活支援活動を行っていますが、地域が一体となって高齢者福祉のニーズに対応した支え合いの仕組みづくりが求められています。

【目指す将来像】

いつまでも、健やかで安心できる明宝

施策 1		少子高齢化に対応するための生活支援の充実
主な取り組み		
1-①	生活支援充実のための活動拠点の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・明宝地区社会福祉協議会と NPO 法人等とが連携し、買い物弱者支援等の生活支援充実のための活動拠点の整備 ・少子高齢化に対応するための自動運転サービスの導入推進(再掲)
施策 2		地域が一体となった支え合いの仕組みづくりの推進
主な取り組み		
2-①	NPO 法人との連携による支え合いの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO 法人等と連携した住民ニーズの情報収集 ・福祉移送事業の充実 ・住民タクシーの推進
2-②	地区社会福祉協議会との連携による支え合いの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域性を活かしたサロンの開設やコミュニティの場づくり支援 ・福祉研修会等の推進

(4) 教育・文化・人づくり

【現状と課題】

明宝では、ふるさと学習に力を入れており、明宝中学校の生徒を明宝公民館が「明宝ふるさと元気づくりサポーター」に任命し、聞き書き学習も積極的に行っています。また、明宝コミュニティセンターに公民館専任主事を配置し、講座の開設、学習成果の発表会等の公民館活動が続けられています。今後も、地域の未来を担う人材の育成として、地域の良さを伝え、郷土愛を深める活動と、教育、文化、人づくりを推進する体制整備が求められています。

一方で、人口減少に伴い地域内での交流活動や地域内のスポーツ施設の利用が減少しています。そのような中でも、地域住民が主体となって、伝統の料理「おとき」の継承・復活による地域外も含めた交流活動が行われ、地域の活気につながっています。今後は、里山文化など地域の潜在資源の掘り起こしと有効活用や、地域内のスポーツ施設等を活用し、スポーツの交流による人材育成の推進が必要です。

明宝歴史民俗資料館は、かつての小学校校舎を使用し、主に住民の方々から提供いただいた生活用具を中心に展示しています。一部は国の重要有形民俗文化財の指定も受け、明宝の大切な宝として、住民の手により大切に保存・伝承されていますが、建物の老朽化が課題となっています。また、明宝保育園園舎は、土砂災害特別警戒区域（急傾斜地）、土砂災害警戒区域（土石流）の指定地内にあり、土砂災害の危険性が極めて高く、両施設共に早期の対応が必要です。

【目指す将来像】

いつまでも、参加したくなる明宝

施策 1		未来を担う人材の育成
主な取り組み		
1-①	ふるさと学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・未来を担う子どもたちに、地域の良さを伝え、郷土愛を深める活動を推進 ・中学生による聞き書き学習など、ふるさと学習の充実
1-②	公民館活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジクラブなど地域の良さを知る公民館活動の充実 ・教育、文化、人づくりを推進する体制の整備

施策 2		食文化やスポーツツーリズムによる交流活動の推進
主な取り組み		
2-①	地域固有の食文化の継承	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統の料理「おとき」の継承や復活など地域固有の食文化の活用による交流事業の推進 ・山菜料理や川魚料理、獣肉料理など里山ならではの食文化の継承による交流事業の推進 ・農泊の推進（再掲） ・食の教科書の活用
2-②	スポーツツーリズムの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内のスポーツ施設等を活用したスポーツツーリズムの推進

施策3		地域の実情に即した施設の整備
主な取り組み		
3-①	公共施設適正配置計画の実施に伴う公共施設の有効活用	・明宝小学校校舎を明宝歴史民俗資料館として活用する検討
3-②	実情に即した施設整備の推進	・明宝保育園の移転整備の推進

(5) 自治・まちづくり

【現状と課題】

明宝では、郷土を愛する気持ちが強い住民が多く、伝統行事の継承や集落環境整備など、地理的条件もある中で集落（自治会）ごとに住民が主体的に取り組んでいます。しかし、少子高齢化による人口減少は過疎化に拍車をかけ、地域の活力は衰退の一途を辿っており、住民が主体となって持続性のある地域活性化を進める地域デザインづくりが今後一層必要となってきます。

また、地域づくり団体や NPO 法人の数は多く、郡上市市民協働センターと協定を結び地域のサブセンターとして自治会や地域づくり団体の支援を行っている NPO 法人もありますが、各団体の連携強化や持続性のある地域活性化を進める拠点づくりの整備が求められています。

【目指す将来像】

ずっと、参画したくなる明宝

施策 1		持続性のある地域活性化を進める地域デザインづくり
主な取り組み		
1-①	人と人をつなぎ、地域課題の解決や地域活性化に向けた取り組みを推進	・情報共有や人材育成のためのワークショップ開催や先進地視察の実施
1-②	各団体間の連携を高める活動の推進	・第三セクターや NPO 法人、地域づくり団体との連携強化に向けた場づくり
1-③	人材づくりのための仕組みの構築	・団体間の情報交流など、連携強化による人材づくりのための仕組みの構築 ・各団体間の連携を高める活動を支援し、人材の育成を推進

施策 2		持続性のある地域活性化を進める拠点づくり
主な取り組み		
2-①	小さな拠点整備の推進	・市民協働センターサブセンターの機能強化
2-②	地域の情報収集、発信及び観光インフォメーション機能を強化	・支え合い活動や移住定住に結び付けられるような地域のビジターセンターの再構築 ・空き家情報や就労情報など、地方移住に必要な情報の集約・発信体制の再構築 ・地域情報誌（月刊めいほう）の編集・発行 ・道の駅明宝と明宝観光協会の一体感のあるインフォメーション機能の強化

施策3		持続性のある地域活性化を進める自治力づくり
主な取り組み		
3-①	再生可能エネルギーの導入活用による自治力の強化と雇用の創出推進	<ul style="list-style-type: none"> ・小水力発電、木質バイオマス発電、太陽光発電等の導入活用による自治力の強化と雇用の創出推進
3-②	地域で活躍出来る仕組みの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材が流出することなく、地域で活躍出来る仕組みの構築 ・祭礼や地域行事など、里山文化の継承支援と活用推進
3-③	自治力強化に向けた活動への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域振興推進事業等を活用した地域力を高める活動への積極的支援 ・地域おこし実践隊事業の拡充や集落支援員派遣事業の導入検討による地域支援

第3章 小さな拠点とネットワークの形成にむけて

(1) 小さな拠点とネットワークの考え方

市内には多くの自治会（地区）がありますが、世帯数が 50 を割るなど、少子高齢化により自治会規模の縮小が進んでいるところも少なくありません。こうした自治会（地区）では、地域住民の安全・安心な暮らしを確保することや祭礼などの伝統行事を維持・継承することのほか自治会共同作業を継続して行っていくことが、今後はより困難になっていくと考えられます。

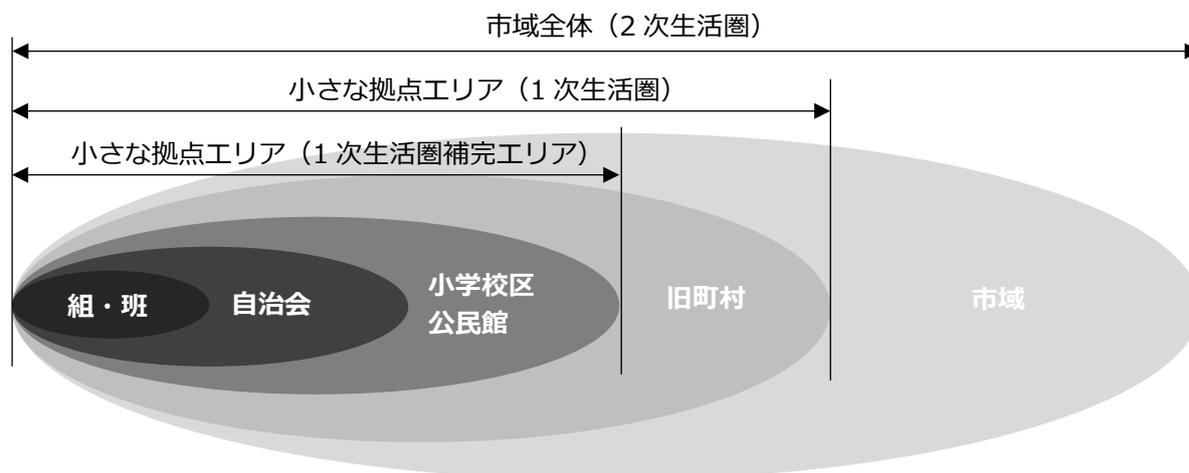
郡上市の人口推移の見通しから、高齢者の割合はますます増加していきませんが、地域活動の担い手となる生産年齢人口の割合はさらに減少していきます。このため、地域的なつながりが強い一定の単位（小さな拠点エリア）において日常の生活を支える機能を集約し、交通、人、情報など様々なネットワークでつなぐ「小さな拠点とネットワーク」の形成と、地域運営組織の構築が急務となっています。

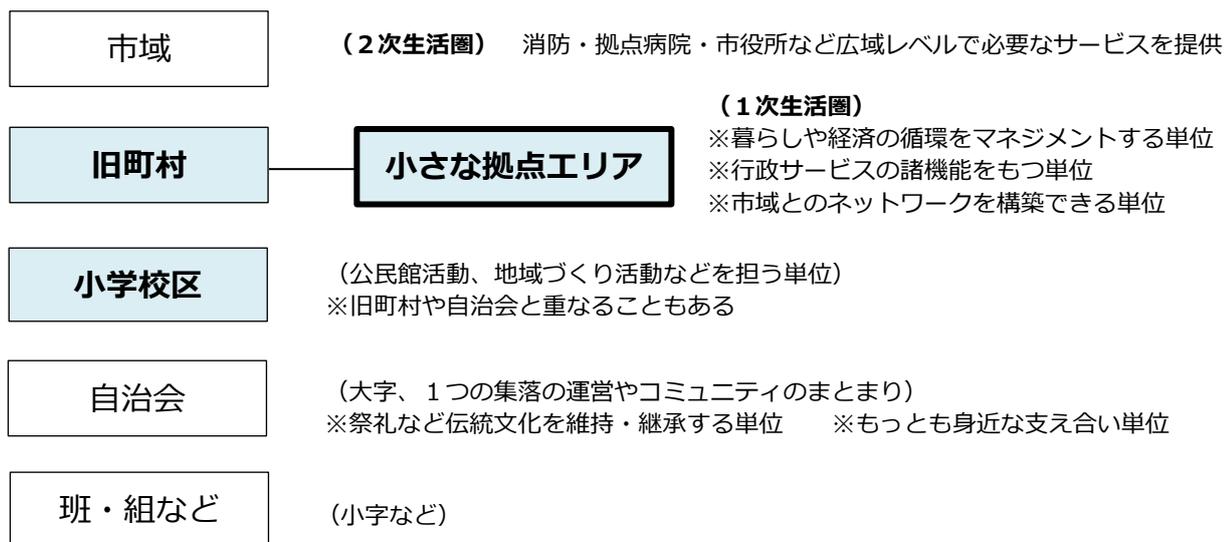
市内には、すでに「小さな拠点とネットワーク」によって地域課題の解決に取り組んでいる地区がいくつかあります。まずはこれらの地区を「モデル地区」として積極的に支援し、地域の実情に合った取り組みを進めながら全市に広げていきたいと考えています。

(2) エリア設定の考え方

地域的なつながりが強い一定の単位（小さな拠点エリア）の設定については、もっとも身近な支え合いが可能となる最小単位のコミュニティや、祭礼などの伝統文化を維持・継承する集落、そして歴史的、文化的経緯を共有できる範囲を考慮する必要があります。市内には班や組、地区会、自治会がありますが、最小の単位を班や組、最大単位を市域（郡上市全域）として捉えた場合に、「小さな拠点エリア」をどのように設定し、設定したエリアの中で「生活拠点」をどのように配置するのか、また生活に必要なサービス等をどのように確保していくのか検討していく必要があります。

郡上市では、こうした考え方のもと、行政サービスの諸機能を有し、市域とのネットワークを構築できる旧町村単位（1次生活圏）を「小さな拠点エリア」と設定しております。ただし、八幡町及び白鳥町については、小学校区を基本とした比較的小規模な単位を、生活や地域コミュニティの形成に最低限必要な一定の機能を有している「小さな拠点エリア」の中にあるサブエリア（1次生活圏補完エリア）として位置付けています。また広域レベルで必要なサービスを提供する消防、拠点病院、市役所などの機能は、2次生活圏として市域全体の中心拠点となる八幡町の市街地エリアに位置付けています。





(3) 地域運営の仕組みづくり

人口減少や少子高齢化が進む中において、地域コミュニティの維持をはじめ、地域で必要な生活サービス等を受け続けられる環境を維持していくためには、住民自らが地域内の課題を自分事として捉え、地域の資金や人材を有効に活用しつつ、住民が主体となって地域での暮らしを支える活動を行うという「住民主体」が基本となります。本計画にある行政が行う施策だけでは解決が困難な地域課題等に対し、今後、住民主体の地域計画（以下「地域運営プラン」という。）を作成し、それを協議、実行していく「地域運営組織」の形成を進めていく必要があります。

「地域運営プラン」や「地域運営組織」を形成していくには、地域の現状を把握し、課題解決に向けた議論や検討が必要となるため、地域の現状を「小さな拠点とネットワーク」（生活拠点として日々の暮らしに必要な機能）という観点から第4章にまとめています。

なお、郡上市では「小さな拠点エリア」を旧町村単位としておりますが、もっとも身近な支え合いが可能となる最小の単位を小学校区として捉え、サブエリアの位置づけのない地域（八幡町、白鳥町以外）についても、小学校区ごとに地域の現状を記載します。

第4章 明宝における小さな拠点とネットワークづくり

明宝は町全体を1つの小さな拠点エリアとしています。小学校区は明宝小学校区、小川小学校区の2つに分かれています。めいほうトンネルの開通によって交通の安全性・利便性が確保されたことから、より良い教育環境を目指して、令和4年4月に小川小学校を明宝小学校に統合する準備が進められています。統合後は、小学校区が明宝全域になることから、小さな拠点エリアと合致しますが、本章では最も身近な支え合いが可能となる最小の単位を小学校区ととらえ、現在の小学校区ごとに地域の現状を記載します。また、隣接している八幡町有穂地区とのつながりも考えていきます。



(1) 校区ごとの現状

【明宝小学校区】	
校区の商店等	<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少・高齢化が進み、ここ数年で小規模店舗の廃業が相次ぎ、校区内には寒水地区と大谷地区に個人経営の小規模商店があるのみです。 ○多くの方が日用品等の購入には、八幡町内の大規模店舗を利用しています。 ○平成29年度から移動販売車が地域内を巡回しています。 ○道の駅明宝が地域の観光を支えてきましたが、今後は地域住民の日常生活を支える施設として検討が進められています。
公共施設	○郡上市役所明宝庁舎、明宝コミュニティセンター（明宝公民館、郡上市図書館めいほう分室）、明宝小学校、明宝中学校、明宝保育園、明宝保健センター、道の駅明宝、明宝歴史民俗資料館
医療・福祉施設	○医療施設として個人開業の明宝医院、福祉施設として明宝デイサービスセンターがあり、校区内外からの利用があります。
公共交通の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○国道472号線を八幡観光バスの運行する明宝線が明宝と八幡町内の主要な施設を結んでおり、地域住民に利用されています。 ○気良・寒水地区において、市の自主運行バスが平日と土曜日に運行しています。
校区の特性	<ul style="list-style-type: none"> ○気良地区では若者が中心となって気良歌舞伎を復活させ、お盆には明宝ロマン工房（地域づくりに取り組む若者組織）や商工会青年部が中心となって道の駅明宝で夏まつりを開催するなど、若者による地域づくり活動が活発に行われています。 ○地域の祭礼も少子化により継続が困難な状況も生まれており、特に奥住地区では小中学生がいない状況となっています。 ○各地区の中心部には集会所（気良地区は東西2つ）が整備されており、自治会活動や地区サロン等に活用されています。

【小川小学校区】	
校区の商店等	<ul style="list-style-type: none"> ○校区内に店舗は無く、J Aのガソリンスタンド内の売り場スペースに日用品等が多少陳列してある程度です。（商品は八幡町市街地のスーパーから届けられます。） ○一番近いスーパーは、八幡町市街地まで行くか、大規模林道八幡～高山線で馬瀬を経由して下呂市萩原町まで行く必要があります。
公共施設	○小川小学校、小川保育園（令和4年4月に明宝小学校、明宝保育園に統合）
医療・福祉施設	○県北西部地域医療センターの巡回診療所体制により、週1回医師が派遣され、診療に当たっています。
公共交通の状況	○小川地区へは、市の自主運行バスが平日と土曜日に運行しています。
校区の特性	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の過疎化・高齢化は著しく、小川小学校の児童数は4人で複式学級により授業が行われています。 ○小学校行事に地域住民も多数参加するなど、小川地区住民の結びつきは強く、市外転出者も地域行事には多く帰郷して参加しています。 ○秋の祭礼や地芝居といった伝統文化や花桃や花壇づくりをはじめ、小川きのりを中心とした観光交流に取り組んでいます。

(2) 明宝の主な地域活動団体

分野	地域活動団体
産業・雇用	郡上市商工会明宝支部 明宝観光協会 食と体験の國・めいほう推進協議会 一般社団法人明宝ツーリズムネットワークセンター 気良布平清流発電所管理組合 小川地域活性化組合 ジビエ工房めいほう一般社団法人
健康・福祉	明宝地区社会福祉協議会 郡上市シニアクラブ連合会明宝支部 明宝民生委員児童委員協議会 NPO 法人ふる里めいほう
環境・防災・社会基盤	郡上市消防団明宝方面隊 郡上市防災士会
教育・文化・人づくり	明宝公民館 明宝地区公民館 明宝文化財保護協会 青少年育成明宝地域会議 郡上市スポーツ推進委員明宝地域部 明宝小学校学校運営協議会 小川小学校学校運営協議会 明宝中学校学校運営協議会 NPO 法人郡上市放課後児童クラブ（明宝放課後児童クラブ） 郡上市子どもの会育成連絡協議会明宝支部
自治・まちづくり	郡上市自治会連合会明宝支部 明宝地域協議会 かのみず地域づくり委員会 小川ふるさとづくり委員会 NPO 法人ななしんぼ 一般社団法人明宝

(3) 小さな拠点とネットワークづくりの方向性

小さな拠点とネットワークを形成していくには、地域住民が主体となって地域を運営していく地域運営組織の形成が必要となります。明宝は町全体を1つの小さな拠点エリアとして設定しており、明宝地域協議会が中心となって活動しています。また、明宝地域内には複数のまちづくり団体をはじめ、様々な団体が活動しており、持続可能な地域づくりに向けた素地が育まれつつあります。

めいほうトンネルの開通や小学校・保育園の統合など、今後は明宝小学校区と小川小学校区との地域的なつながりも考慮したうえで、地域運営組織を検討していく必要があります。また、明宝地域協議会を中心に、自治会や公民館をはじめ、地域団体との連携及び各種団体の役割分担や整理を行い、道の駅明宝などの地域の拠点施設を活かしながら持続可能な地域を目指す必要があります。

◆明宝地域の小さな拠点とネットワークに向けた活動例

明宝地域では、観光交流・生活者支援分野は道の駅明宝を、公共サービス分野は明宝コミュニティセンターや隣接する明宝保健センター、明宝庁舎を拠点施設として小さな拠点とネットワークの取り組みを進めています。すでにNPO法人が福祉支援を主とした地域課題解決の取り組みを行うとともに、市民協働センターのサブセンター機能を担っています。

今後は、この2カ所を拠点と位置づけて、分野ごとに明宝地域協議会が中心となって関係団体の役割分担を明確にすることで地域運営組織の形成を目指していきます。